

絵画展 「消えゆく折尾駅とその周辺101景」を終えて

5月16日から5月31日まで「ゆめ広場」にて西川幸夫 スケッチ・淡彩「四季彩」陣原市民センター教室の皆様による絵画展「消えゆく折尾駅とその周辺101景」が開かれました。折尾駅周辺の何げない風景を心温まるタッチで描かれた絵は訪れる人々の心をなごませてくださいました。ありがとうございました。又、朝日新聞にもその様子が掲載され大きな反響をいただきました。

作品を展示していただいた方々に絵画展の感想・折尾駅への想いを寄せていただきました。

(50音順に掲載しております。)

永年慣れ親しみ人々を見守ってきた折尾駅の建て直しが決まり、レトロな駅舎が消えていくのはとても寂しく感じます。私達が描き残した風景画はいつまでも色褪せず心に残ることでしょう。

池田 亜都子

暖房として使われていたストーブを囲むベンチは折尾駅のたった一つの宝物のように思っています。形も素晴らしいです。座っておりますと妙に落ち着きます。新しい駅になります時に居心地のよい場所に残したならば駅を利用する人への憩いの場として愛されることでしょう。

岩田 祥子

学生時代を大阪で過ごした4年間、出発時、帰省時折尾駅を利用した。「頑張っ
てこいよ」「お帰りなさい」と言ってくれた、筑豊本線と鹿児島本線とを結ぶ赤レンガの連絡通路。わが青春の一番の思い出である。

瓜田 惇二

折尾駅が新しくなると聞いた時、「保存されるんだろう。」と考えました。日本で数少ない線路が上下で十字になっている駅であることから駅自体が残って今日あるという。遺産として描き残すというのは淋しい気持ちでした。

大川 力

老朽化した建物を頑丈なコンクリートでスマートに建て替える。そのことは現在では必要なことだけど、明治・大正時代の面影がひとつずつ消えていくのは残念です。これも時代の流れなのでしょうか？

幸い写真や絵はいつまでも残ります。小倉南区に住んでいる私にとって折尾駅は、今まで電車の中から見るだけでしたが、描く機会に恵まれて忘れられない駅になりました。

尾山 敏子

5番ホームの石段を利用する毎に三年間の高校生活を思い出していました。名残り惜しみながら描きました。

仲間入りしたばかりの私に描く意欲と素敵な友人達をあたえてくれた“消えゆく折尾駅周辺を描く”よ、ありがとう。

過能 幸子